

今月のコラム

家庭菜園の季節が来た！

北越農事 田中昌彦



新潟に居て鼻がムズムズしだすと、そろそろ野菜苗の出荷が始まります。

毎年の事です、出荷作業が続くにつれ次第にヤツレテいく鏡の中の自分に気付き、衰えていく体力を嘆く時期でもあります。しかしながら当社においては最大の稼ぎ時のため、愚痴や泣き言などは言えず、むしろメタボのおなかが一時的に凹むのを喜ぶべきなのでしょう。

昨今の家庭菜園ブームによる野菜苗需要の増加がもたらすこの事態がいつまで続くのかは、関わりある我われ業界側の取り組み姿勢にかかっているのではないのでしょうか？

このブームを一過性のものとさせず定着化させるためには、初心者を実に成功に導くことが不可欠であるのは誰しも思うところです。何故なら増加している分のほとんどはご新規様たちなのだからです。

野菜苗の形態は同じでも、それを栽培する人のレベルは農家さん並みのベテランから初めてトライする人まで様々なものだから、理解しやすい説明が必須要件となります。そのため当社では栽培方法はもとより調理例など可能な限りの情報を盛り込ませることが出来るラベルを採用しました。

また、春に販売した苗がどのように生育して収穫に至るかを検証することも販売者の責任として捉えています。

昨夏に当社の農場において、販売している野菜苗の全品種を畑と容器で栽培して、お取引先に公開する機会を設けてみました。どれも収穫できて当然と思いながらも、注目されたのが容器栽培の野菜たちで、トマトやナスはもちろんゴーヤ、メロン、スイカまでナンデモ出来てしまう結果を観て、皆さんカメラのシャッターを押す回数が多かった様子でした。

この結果をもたらししてくれたのは、底面給水機能を持つ野菜専用プランターのおかげでした。容器栽培での最大の難関が夏の水管理だというのは、誰しも共通の問題で、これを巧く乗りきらないとガッカリな結果になってしまいます。このように栽培上の課題を解決してくれる商品は今後さらに進化していくのでしょう。

庭が狭いわが家でも、例年ミニトマト、トウガラシとゴーヤをプランターで栽培していますが、ほんの数個が結実して、必ずしも美味しいとは言えない自家産野菜を食べることで大満足です。もちろん畑で作るよりも収穫量は少ないですが、その喜びは変わらないはずで。

栽培容器だけでなく用土・肥料や農機具なども使い易い商材が多彩となって来ています。ホンダのガスボンベ耕運機が発売1年で1万台を突破したと聞きました。

土いじりが人間の究極の余暇の過ごし方だという説を耳にしますが、今の不況情勢下では少ないそんな成長期待分野に関わって得ているビジネスチャンスを見逃さないようにしようと日々考えます。





カエデ
kaede



総会記念セミナー 講演内容決まる

6月8日、メルパルク東京で

当会の平成22年度通常総会は、6月8日（火）午後、今回は会場を変えてメルパルク東京（東京都港区）において開催します。

当日の記念セミナーは、「建物の建ち方」と題して建築家でありみかんぐみ共同主宰の加茂紀和子氏と「屋上やベランダで楽しむ野菜作り」と題して東京農業大学農学部の木村正典准教授（都市園芸学専門）のお二人です。ご期待下さい。



木村正典氏



加茂紀和子氏



東京インターナショナルフラワー&ガーデンショー

4月17日、いよいよ開幕

国内外のトップクラスのガーデンデザイナー・園芸家・フラワーデザイナーが集まる東京インターナショナルフラワー&ガーデンショーがいよいよ、4月17日～25日に国営昭和記念公園 みどりの文化ゾーン（東京都立川市）において開催される。

メインの招待者4人によるショーガーデン始めシティガーデンのほか、ハンギングバスケット・パーク、コンテナガーデン・ストリートなどが展開され、連日、音楽やセミナー、体験サロンなどが、東京ドーム2個分の規模で開催される。

ホームページ：<http://www.tokyoflowershow.jp/>



ガーデントライアル、出展者募集

テーマ展示は『野菜と果樹』

当会が開催する蓼科バラクラでの商談会「ガーデントライアル IN 蓼科2010」のテーマは『売り場から買い場へ』ですが、具体的な展示内容は『野菜と果樹』を取り上げます。野菜では「緑のカーテン・ベランダを中心にした野菜作り」と「連作障害克服などの資材提案（商品紹介・使用方法）」を、果樹（苗）では「コンテナ菜園（ベランダ等の省スペースや高層階での作り方）」を見本鉢など具体的な形で売り場作りを提案する予定です。

ガーデントライアルは、「フラワートライアルジャパン2010秋」と同時開催です。フラワートライアルは、昨年、バラクラなど6会場で開催され、ホームセンターや専門店のバイヤー、生産者、流通業者などが、各会場とも数百名単位で訪れて活発な商談が行われました。出展者はもちろん、業界関係者も欠かせない商談会として位置づけられています。

フラワートライアルは、殆ど宣伝も無し、口コミで、すでに昨年より6割を超える出展申込みがあり、昨年以上の来場者が予想されています。

ガーデントライアルの出展費用は、1小間当たり（大）3m×1.5m 50,000円、（小）1.5m×1.5m 30,000円で、このほか20,000円の事務局費が必要です。

申込み資格は、NPO ガーデンを考える会会員。〆切り 2010年4月30日（金）

問合せ・資料請求は事務局（TEL 052-571-7911）まで。E-mail npogarden@green-joho.jp



短信

・ハンギングバスケット講師認定試験募集：日本ハンギングバスケット協会は、2010年「ハンギングバスケット講師認定試験」を西日本、中日本、東日本、北海道の全国4会場で8月から9月かけて行うことになり、受験者を募集している。問合せは事務局（tel052-807-2751）まで。<http://www.jhbs.jp/>



カエデ
kaede

母の日ギフトに新商品『プリンセチア』期待高まる

花き業界最大の物日「母の日」ギフト。カーネーションが主流だが、鉢花では、リーガースベゴニア、バラ、ハイドランジア等が主力商品となっている。そうした中で、今年はポインセチアと違った魅力を引き出したプリンセチアに注目が集まっている。昨春秋以降に大々的にデビューしたが、好評で、母の日イメージのホットピンク・ルージュを中心に、変わり色のピンクホワイトが期待されている。



今年も野菜提案で売上げアップを狙う 各社見本市

園芸業界、新春見本市が各地で開催されたが、野菜人気が高まる中、それぞれ一押し商品、売り場提案など野菜関連に力がいった。



スイカだってコンテナ栽培
(カネコ種苗見本市)



葉はミキサーにして甘い青汁に、
茎を炒めても美味しい「甘ケール」
(角田ナーセリー展示会)



生牡蠣そっくりの味「オイスターリーフ」
(フカエン見本市)



野菜売場の見本展示 (北越農事見本市)

会員紹介

日本ポリ鉢販売株式会社

日本ポリ鉢販売株式会社はポリ鉢、トレー、その他資材、SP栽培システム関連機器の商品開発及び製造販売を行っております。

製造工場としては美濃工場があり、トレーを中心に製造を行っております。

また、グループ会社には、有限会社金山化成、ジャパンフラワーネットワーク株式会社、ワンイレブン株式会社があります。

- ・有限会社金山化成は上海工場、白川工場、その他協力工場にてポリ鉢の製造を行っております。
- ・ジャパンフラワーネットワーク株式会社はラベルポットの企画・制作・販売を行っております。
- ・ワンイレブン株式会社はオーダーメイドプラスチックの企画・設計・製造を行っております。

多様な素材を用途に合わせて使い分け、お客様のニーズに的確に対応し、なおかつ「最適生産・低価格」を実現いたします。このような形でグループで幅広い分野にまたがり、営業活動を行っております。

また、日本全国を対象に生産者ネットワークづくりを進めています。情報提供や視察研修会などを行っております。

One11
ワン・イレブン

UFN

お問い合わせ **NIPPORI**
〒505-0036 岐阜県美濃加茂市山手町3丁目26-1
電話：0574-24-7724 FAX：0574-24-7728
<http://www.kpot.co.jp/> e-mail:nippori@kpot.co.jp



カエデ
kaede

コラム

盆栽文化を伝承

大樹園 鈴木 亨



春の日差しが少しずつ差し込み、鉢植えの梅の花が終わりに近づき、桜の花が咲きかける。盆栽は、四季折々の顔を見せてくれます。

盆栽は、日本の伝統文化として古くから親しまれてきました。

時は鎌倉時代から万年青、蘭とともに高貴な人達に鉢植えとして楽しんでいる様子が絵巻の中にも見られます。その後、江戸時代からは一般庶民にも普及し盆栽文化の始まりです。

盆栽は、自然界に自生する植物の中から盆栽に適した素材を選び、適応した技術を加えながら培養育成し、その木のもって生まれた素質を生かしながら樹形を作り、品性と美的鑑賞価値を高めていくものです。

盆栽の展示会としては、国内最高峰である国風展があります。これは、毎年2月に東京上野美術館で開かれ、260点の出品があります。この展示会は、盆栽愛好家が自分の作品を応募し、選りすぐれた作品を審査します。毎年500点前後の応募があり、半数近くが落選します。そのため愛好家の人達は、この展示会に出品出来るように日頃の培養、管理に努める訳です。

盆栽の展示会は各地方においても行われていますが、最近目立つのが外国人の観客で、どの会場でも多く見られます。これは今、世界各国盆栽ブームでありまして、昭和47年の大阪万博を皮切りに世界に盆栽愛好家が増えて来ています。日本の盆栽の良さから、買い付けに訪れる外国人も多く、国内の盆栽がずいぶん輸出されています。又、技術を学ぼうと研修に来る若者も増えていきます。

それと同時に世界においても展示会を開催する事が恒例となって来ています。その為日本の技術を披露する機会が多くあり、私も毎年数カ所の国に盆栽の指導に当たり、盆栽大会ではデモンストレーターとして招待される機会が増えていきます。今年はイタリアとチェコです。盆栽は心の安らぎをもたらし、身体のゆとりを引き出し、時と共に成長して行くものですから、多くの人に楽しんでもらいたいと思います。

そして今は、盆栽の普及に力を入れて、数百年の歴史を引き継ぎ、後世に残るよう日々努力して参りたいと思っております。



黒松



自宅庭風景



事務局だより

ガーデンを考える会
事務局 TEL052-571-7911
FAX052-571-2208

日本フラワー＆ガーデンショウには初日26日に行きました。開幕前の入場者の列も長かったですが、午前中はどこからこんなに集まってきたのか、すれ違いもままならない通路が各所で。外は肌寒い日が続き、桜も咲いていない状態でありましたが、春の園芸を十分に期待させてくれる、わくわくした1日でした。